



文化科学専攻

# 茨城大学大学院 人文科学研究科

[修士課程]

文化科学専攻

人間文化コース

コミュニケーションコース

地域政策専攻

法学・行政学コース

経済学・経営学コース

地域研究・社会学コース



地域政策専攻

Graduate School of Humanities  
Ibaraki University



茨城大学  
Ibaraki University

## 研 究 科 長 挨 拶

人文科学研究科長 佐々木 寛司

人文科学研究科は「文化科学専攻」と「地域政策専攻」の2専攻からなり、さらに専攻横断型の教育プログラムを開講し、充実したカリキュラムを提供しています。

「文化科学専攻」では、人間科学、歴史・文化遺産、文芸・思想、言語科学、異文化コミュニケーション、メディア文化に関する研究を行い、その研究から得られた専門知識を教授します。「地域政策専攻」では、法学・行政学、経済学・経営学、地域研究・社会学に関する研究を行い、その研究から得られた専門知識を教授します。

授業は、密度の濃い少人数教育です。2年間にわたる教員の丁寧な指導の下で、専門的なテーマを修士論文として執筆します。同級生と日々、切磋琢磨しながら、「基盤養成科目」で幅広く深い教養を吸収し、「研究推進科目」で高度な専門知識を学び、「キャリア支援科目」で専門職業人に必須の技能を身につけることができるような、独自のカリキュラムが編成されています。また、社会人の方々には、履修が容易になるような様々な方策を実施しており、留学生諸君には、きめ細かい日本語教育も保証しています。

自らの新たな可能性を信じ、向学心に燃えている学生、社会人、そしてあらためて自分自身を見つめ直す機会を探している方々、人間が生きることの意味を、そして人間が作り上げる社会を、じっくり考えてみませんか。私たち人文科学研究科の教員は、このような方々が人文科学研究科に入学され、研究・調査・分析能力を磨き、判断力・構想力・実践力をレベルアップして修了し、文化と社会の持続的な発展に貢献してくださることを願ってやみません。



# コミュニティ・ マネージャー 養成プログラム が受講できます

## 研究科の目的

わたしたちの研究科は、広く文化と社会の進展に寄与するために、人間の文化と現代社会が直面する学術的・政策的諸課題についての研究を行っています。そして、そこから得られる専門知識の教授をとおして、産業界はじめ広く知識基盤社会の中核を多様に担い、文化と社会の持続的発展のために貢献する専門職業人、すなわち中核的専門職業人を育成することを目標としています。

## 課程の概要

修業年限は2年で、所定の単位を修得し、指導教員のもとで研究の成果を論文等にまとめ、審査と最終試験に合格すると、修士(学術)の学位が授与されます。また、新たに副専攻として「コミュニティ・マネージャー(地域人材)養成プログラム」を受講できる仕組みもあります。これは地域連携的な調査・実習をつうじて実践的知識とスキルの獲得をめざすものです。さらに中学校教諭および高等学校教諭の1種免許状の授与資格を得ている人が、研究科に在学して所定の単位を修得した場合には、それぞれの専修免許状(国語、社会、地理歴史、公民、英語、ドイツ語、フランス語)を取得する資格が得られます。

## 皆さんの入学を歓迎します

わたしたちの研究科では、人文社会諸科学の研究に必要な基礎的能力を備え、深い関心と熱意を持った方の入学を歓迎します。

在学中には、幅広い視野と深い専門性を身につけ、意欲的、計画的に研究・調査・分析をすすめ、判断力・構想力・想像力等の自己形成に励んでいただきたいと思います。修了後には、知識基盤社会における中核的専門職業人としてこれらの能力を発揮し、文化と社会の持続的発展のために貢献されることを期待しています。

## 研究科の沿革

わたしたちの研究科は平成3年度に文化構造専攻と言語文化専攻の2専攻体制で発足したことに始まります。その後、平成6年度に地域政策専攻が、平成12年度にコミュニケーション学専攻が設置され4専攻体制になりました。その後、平成21年度に文化科学専攻(人間文化コース、コミュニケーションコース)と地域政策専攻(国際経済社会コース、地域法政策コース)の2専攻4コースに改組されましたが、平成25年度からは、地域政策専攻が3コース(法学・行政学コース、経済学・経営学コース、地域研究・社会学コース)となり、新たな体制とカリキュラムのもとでの教育がスタートします。

## 社会人・外国人留学生 のために

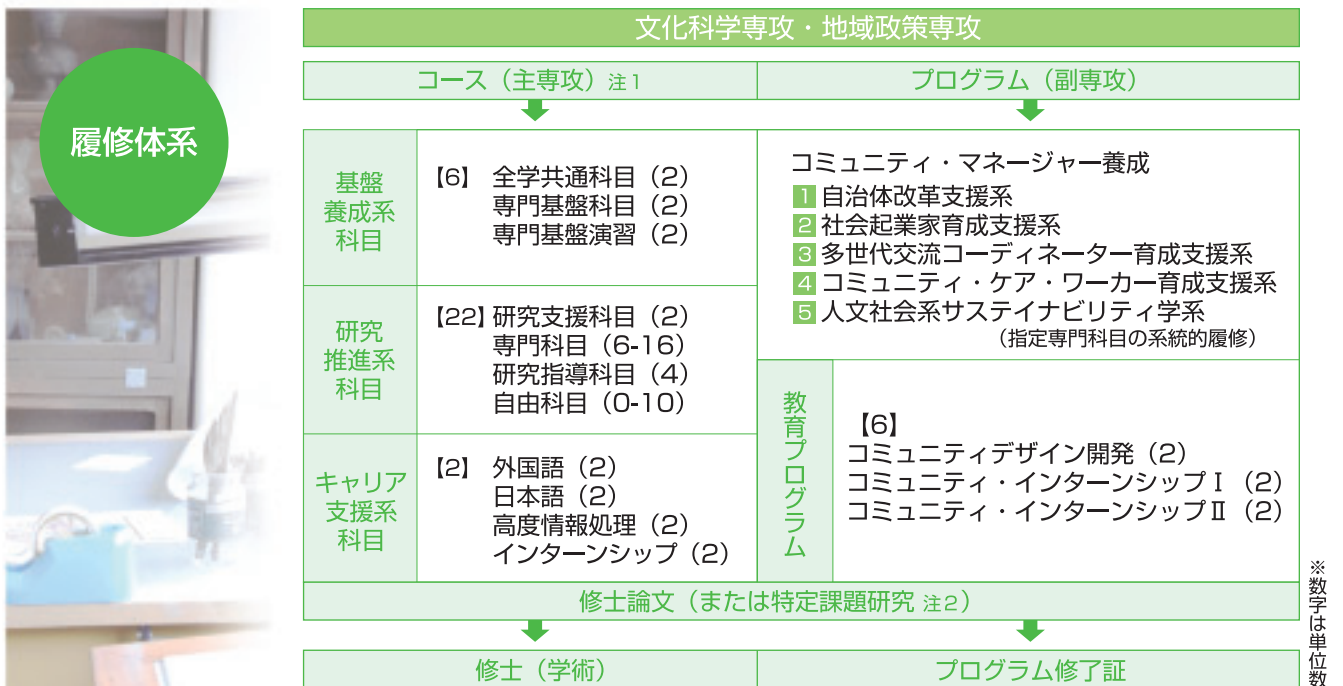
本研究科では社会人や外国人留学生を積極的に受け入れるべく、入試においては特別選抜を行なっています。また、職業を有する人の修学の便宜を図って、修業年限の延長を認める「長期履修制度」や夜間開講等の仕組みも設けられています(詳しくは11頁参照)。こうした背景のもとで、国籍においても年齢においても多様な人々の学びの場となっています。



# 専攻科目、共通科目、そしてプログラム科目 俯瞰的な視野を身につけ、高度な専門知識を究める

## ■ カリキュラムの概要

わたしたちの研究科では、専攻科目により専門分野に関する高度の専門的知識及び能力を習得するだけでなく、幅広い学識と専門分野に関連する基礎的素養を養うため、大学院共通科目、研究科共通科目が開講されています。また、副専攻としての教育プログラムを履修することも出来ます。



注1：コースは「研究・学習の対象領域のまとまり」であり、プログラムは「知識やスキルを身に付ける実践的な体系」であり、研究科では、学生はコースから学ぶ専門知識を材料とし、プログラムから得られる実践的なスキルや方法を駆使して、現代の人間、社会、文化の諸側面にアプローチしていきます。

注2：映像作品やソフトウェアの開発、行政機関や地域社会との共同企画などをもって、修士論文に代えることができます。

## ■ 共通科目

大学院共通科目は、茨城大学大学院全体の共通科目であり、幅広い学識と俯瞰的視野及び職業的素養などを涵養します。理系の学生とも一緒に学ぶ画期的なものです。

研究科共通科目は、人文科学研究科が開講するもので、専門に近い領域で基盤的な学識や素養を修得します。

| 科目の区分       |          | 授業科目名  |                                      |
|-------------|----------|--|--------------------------------------|
| 大学院<br>共通科目 | 基盤養成科目   | 地球環境システム論Ⅰ、人間システム基礎論Ⅰ、学術英会話、研究と教育一知の往還をめぐってー、科学と倫理、学術情報リテラシー、国際コミュニケーション特論、感性数理工学特論、実学的産業特論、原子科学と倫理、霞ヶ浦環境科学概論、食料の安定生産と農学、持続社会システム特論Ⅰ、持続社会システム特論Ⅱ、持続社会システム論Ⅰ、地域サステナビリティ農学概論 |                                      |
|             | 専門基盤科目   | 人文社会科学基礎論Ⅰ、人文社会科学基礎論Ⅱ  |                                      |
| 研究科共通科目     | キャリア支援科目 | 外国語  | 英語講読、英作文、英会話、ドイツ語表現法、フランス語表現法、中国語表現法 |
|             |          | 日本語  | 日本語表現法Ⅰ、日本語表現法Ⅱ                      |
|             |          | インターンシップ   | インターンシップ、実践的キャリアデザイン論                |
|             |          | 高度情報処理   | 高度情報処理                               |

注) 開講科目名は平成24年度のもの。

# コミュニティ・マネージャー（地域人材） 養成プログラム

—地域連携・社会貢献を目指して—

わたしたちの研究科では、すべての学生が履修するコース（主専攻）に加えて、選択でプログラム（副専攻）もあわせて履修することが出来ます。この教育プログラム（コミュニティ・マネージャー養成プログラム）は、学外の協力機関とも連携し、幅広い分野の知識を基盤に地域・社会を主体的に構想しデザインできる発想と技能を身に付けてもらい、地域・社会において求められる人材を育てることを目指しています。

なお、コース修了のためには30単位が必要ですが、プログラムも併せて履修する場合は、下記の5つのサブ・プログラムの中からひとつを選択し、最低限34単位の履修をすることが必要となります。プログラム履修を終えた学生には、コース履修の修士号に加えて、プログラムの「修了認定証」が交付されます。



## サブ・プログラム

### 1 自治体改革支援

自治体行政におけるNPMとガバナンスや「協働」の考え方、自治体の広域化と財政状態悪化という自治体行政の環境変化等に関する専門科目の体系的な履修を通じて、自治体改革の基礎的理論や事例を学びます。これにより、広い視野から自治体行政が抱える問題点を把握し、問題解決の方向性を考察し、現場で実践できる行政職員の育成を支援します。

### 2 社会起業家 育成支援

マイクロビジネス（創業・経営革新事例）、コミュニティ・ビジネス等の専門諸科目の体系的な履修を通じて、持続可能なコミュニティ形成を支援するツールについて学習します。これにより、「社会起業家」の存在と役割、およびその社会的意義について理解を深め、「企業と地域とコミュニティ・ビジネスの連携のあり方」について考究します。

### 3 多世代交流 コーディネーター 育成支援

地域、保育、学校、福祉など、さまざまな生活領域において、子どもから青壮年そして高齢者による多世代交流を支援できるような担い手の育成を目指します。心理・社会関連科目の学修はもちろん、現場でのフィールドワークも重視して、多世代・多領域の人たちをつなぐ幅広いコミュニケーション能力と深い考察力を育みます。

### 4 コミュニティ・ ケア・ワーカー 育成支援

地域における福祉・医療・看護などの関連領域問題に取り組みます。問題の背景やその解決のための方法としての多角的な視点（Multi-disciplinary）からアプローチすることが可能になることを目標とします。異なる領域の専門家の協働や必要なシステムの構築、ボランティアや非専門家の活用などができるようにします。

### 5 人文社会系 サステナビリティ学

持続可能な社会の構築のために、科学的な態度で論理的に物事を捉え分析できる能力を有しつつ、人間や社会に対する深い洞察ができる人文社会諸科学のセンスと知識を備えた人材を育てることを目指します。主に人間システムおよび社会システムにかかわる広い理解とそれぞれの専門性を持ち、国際的にも活躍できる人材の育成を目指します。

注) 現在、平成25年度に向けてプログラムを見直し中です。

# 文化科学専攻の概要

文化科学専攻は人間文化コースとコミュニケーションコースの2つのコースから成っています。

## ■ 人間文化コース

人間文化コースには、人間科学分野、歴史・文化遺産分野、文芸・思想分野、言語科学分野の4分野があります。

- 各分野の主な研究領域は、およそ次の通りです。
 

|           |  |
|-----------|--|
| 人間科学分野    | 心理学、社会学、文化人類学  |
| 歴史・文化遺産分野 | 考古学、日本史、ユーラシア史、アジア史、ヨーロッパ近現代史                          |
| 文芸・思想分野   | 日本思想史、哲学、美術史、国語・国文学、中国思想・文学、ドイツ文学、フランス文学、イギリス文学、アメリカ文学 |
| 言語科学分野    | 言語学、英語学、英文法論   |
- 修了後の主な進路は、大学院博士課程への進学や留学、教員、学芸員、公務員や各種民間企業、NPOなどです。



## 【主な授業科目】

| 分 野     | 主 な 授 業 科 目   |
|---------|---|
| 人間科学    | 行動機構論、認知行動論、社会行動論、心理臨床論、生涯発達論、行動文化論、現代社会論、文化人類学   |
| 歴史・文化遺産 | 日本考古学、中国考古学、日本文化史、日本社会文化史、日本社会史、ユーラシア歴史文化論、アジア歴史文化論、ヨーロッパ歴史文化論  |
| 文芸・思想   | 日本思想史、古典哲学、現代哲学、美術史、日本古典・近代語、日本古典文学、日本近代文学、中国古代言語文学、中国近現代言語文学、中国古代文化、ドイツ近代言語文学、ドイツ現代言語文学、フランス近代言語文学、フランス現代言語文学、イギリス文学、アメリカ近代言語文学、アメリカ現代言語文学 |
| 言語科学    | 記述言語学、言語理論、認知言語学、対照文法、英語学、英文法論  |

## 【教員一覧】

| 分 野     | 教 員 名   |
|---------|---|
| 人間科学    | 宮崎 章夫、伊藤 哲司、石井 宏典、野口 康彦、松本 光太郎、稲葉 奈々子、青山 和夫   |
| 歴史・文化遺産 | 田中 裕、鈴木 敦、高橋 修、佐々木 寛司、澁谷 浩一、山田 桂子、深澤 安博   |
| 文芸・思想   | 伊藤 聡、渡邊 邦夫、守屋 唱進、藤原 貞朗、櫻井 豪人、堀口 育男、谷口 基、井澤 耕一、西野 由希子、真柳 誠、小泉 淳二、佐藤 和夫、神田 大吾、市川 千恵子、大畠 一芳、小泉 由美子 |
| 言語科学    | 藤井 文男、永井 典子、鄭 基成、岡崎 正男、西山 國雄  |

## 留学生の声



異文化コミュニケーションコース  
由 一  
【中国人留学生】  
【平成23年度入学】

私は中国からの私費留学生です。2010年6月に中国北京連合大学日本語学部日本語専攻を卒業しました。大学三年生の時、交換留学生として日本に留学し、高知女子大学で一年間を過ごしました。昨年9月に再来日し、茨城大学の研究生としてはじめて学問としての異文化コミュニケーションに触れることができました。今年4月から茨城大学人文科学研究科文化科学専攻に所属して、日本語の曖昧表現と日本的価値観について研究しています。

日本語の曖昧表現には、学部生の時から大変興味を持っていました。それに関する卒業論文を書き、北京連合大学卒業論文最優秀賞をいただきました。大学院でも日本語の曖昧表現と異文化コミュニケーションとの関係について研究を続けたいと思っています。

異文化の人々との接触には、言語能力だけでなく、その文化に生きる人々の価値観や習慣などに対する理解が必要です。茨城大学は異文化コミュニケーションコースが設けられている数少ない国立大学の一つで、グローバル化時代にふさわしい異文化コミュニケーション能力を習得し、研究することができます。

特に、茨城大学人文科学研究科の授業はほとんどが少人数で行なわれており、先生方から直接指導を受け、情報や知識を吸収することができます。また、自分の専門分野だけでなく、他の分野の授業も履修し、幅広い視野や知識を身につけることもできます。さらに、外国人留学生のために修士論文などに役立つ日本語授業のプログラムもあり、充実した大学院生活が送れます。

茨城大学人文科学研究科に入学できたことで、以前から深い関心を抱いていた日本語の曖昧表現の研究ができるだけでなく、世界各国の異文化出身の人々や日本の地域社会に暮らす人々とも接触する機会に恵まれ、豊かな異文化交流を楽しんでいます。茨城大学の充実した環境の中で、自分の好きなことを続けて研究することができて、とても嬉しく思っています。

## ☐☐ コミュニケーションコース

コミュニケーションコースは異文化コミュニケーション分野、メディア文化分野の2分野があります。

- グローバル化や高度情報化への対応を意識して、異文化コミュニケーション、国際協力、メディア文化、メディア環境などの理論とあり方を研究するとともに、高度な外国語の能力や実践的な技能を獲得することをめざしています。
- 修了生には、マスコミや情報関連企業、NGO、NPOなど国際協力の第一線で活躍することが期待されています。



### 【主な授業科目】

| 分 野          | 主 な 授 業 科 目  |
|--------------|--|
| 異文化コミュニケーション | 異文化理解とコミュニケーション、国際交流実践論、グローバル・イシュー研究、多言語社会と言語紛争、異文化接触と文化の生成、日韓（朝）文化交流の歴史と現状、日本・アジア対照研究、Language and Culture in English-speaking Countries、Teaching Media English |
| メディア文化       | 現代ジャーナリズム論、広告コミュニケーション論、情報とコミュニケーション、放送メディア論、新しい情報技術とコミュニケーション革命、コミュニケーションの社会学   |

### 【教員一覧】

| 分 野          | 教 員 名   |
|--------------|---|
| 異文化コミュニケーション | 金本 節子、東 佳史、三輪 徳子、伏見 厚次郎、梁 継国、糟谷 政和、杉本 妙子、シュミット・ロナルド |
| メディア文化       | 古賀 純一郎、高野 光平、菅谷 克行、鈴木 栄幸、加藤 篤志、村上 信夫                |

### 院生の声



文化科学専攻  
山崎 一希  
[平成23年度入学]

私は2006年に他大学を卒業した後、地元のラジオ局で5年間働いていましたが、一念発起して茨城大学大学院の社会人特別選抜を受験しました。現在は週末の番組のディレクターを続けながら、平日はキャンパスで学んでいます。

所属しているのは伊藤哲司先生（社会心理学）の研究室。伊藤先生とも仕事を通して出会いました。当時担当していた情報番組の取材のため研究室を訪れたのがきっかけです。「人はなぜUFOを見るのか？」というそのときのインタビューはお蔵入りになってしまいましたが、先生とはその後も連絡をとりあう関係に。あるとき、子どもたちの学校観と学校経験について研究した私の学部卒業論文の内容に先生が興味をもってくれたことから、その研究をもっと深め、発展させたいと思うようになりました。

同じ研究室には、私よりもずっと年上の社会人もいるし、留学生の仲間も多くいます。日常のやりとりのひとつひとつが新鮮で、日々いろんなことを吸収しています。また専門である社会学や心理学の分野に留まらず、思想や経済、政治、あるいは仕事と直結するマスメディアやジャーナリズムに関する内容まで、自分の興味・関心に応じて幅広く、しかも少人数のクラスで、学生の知識や経験に応じてしっかり勉強できるので、知との出会いを楽しみ、見識を広げながら研究を進めることができます。

社会人を経験した学生ほど、ある意味で遠慮が少なく（！）、自分の研究目的のため積極的に行動し、多くの先生や学生とコミュニケーションをしています。私も最近教育学研究科の学生とともに、学部・研究科をこえた有志の「学校フィールド勉強会」を立ち上げ、先生たちからも応援してもらっています。

修了後の進路は決まっていますが、2年間の研究と活動の成果、そしてこれまでの仕事の経験も活かしながら地域の発展に関われるような、ユニークな仕事ができればと思っています。

### 先生の一言

文化科学専攻教授  
社会行動論担当  
伊藤 哲司

#### 「専門深化と幅広い興味関心と」

未曾有の被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災とそれに続く原発事故は、もはやだれもがこの社会の傍観者であってはいけないことを示唆しています。大学院で「人間」について深く研究し学ぶみなさんには、自分の専門性をさらに深化させると同時に、この社会で何が起きているのか、そして自分の立ち位置はどこなのかについて、幅広い興味関心を抱き続けていただきたい。そして専門分野や学問領域を越えて対話していくことです。「正しい答え」を誰かが用意してくれるわけではなく、私たち自身が語りなおしのなかで「正しい答え」を常に更新し続けていかなければならないのです。

# 地域政策専攻の概要

## 法学・行政学コース

- 現在我々が直面している社会的課題を政策的思考能力と法的思考能力（リーガルマインド）をもって実践的に解決していく人材の育成を目指しています。修了後は、行政・民間企業・NPOの職員として調査分析能力や企画立案能力を発揮する、あるいは司法書士・税理士等として活躍するなど、多様な進路が考えられます。

### 【主な授業科目】

憲法研究、民法研究A、民法研究B、刑法研究、商法・経済法研究、社会保障法研究、行政法研究、比較法研究、地方政治論研究、行政学研究、公共政策論研究

### 【教員一覧】

齊藤 笑美子、石井 智弥、高橋 大輔、陶山 二郎、荒木 雅也、土屋 和子、古屋 等、井上 拓也、佐川 泰弘、馬渡 剛



## 経済学・経営学コース

- 複雑でグローバル化している経済社会を、経済・経営・会計の専門性に基づいて把握しつつ、多角的な視野と専門的知見を修得して問題解決に努める人材養成を目指しています。修了生には他大学院博士課程への進学、税理士、公務員や教員、金融・流通・メーカーなどの財務・経理・人事・営業・企画部門などでの活躍が期待されています。

### 【主な授業科目】

理論経済学研究、経済統計研究、経済政策研究、財政学研究、金融論研究、労働経済論研究、日本経済研究、管理会計論研究、監査論研究、経営学研究、アメリカ産業論研究、経済史研究

### 【教員一覧】

石垣 健志、田中 泉、清山 玲、後藤 玲子、齋 和、内田 聡、有泉 哲、佐藤 英一、高井 美智明、牧 良明、藤本 共一、宮崎 忠恒



## 院生の声



地域政策専攻  
千葉 周平  
【平成22年度入学】

僕は国際経済社会コースで政治学の研究をしています。ここでは地域政策専攻が持つメリットとデメリットについて僕の経験から述べさせていただきます。

先にデメリットです。それは2つあります。第1に他大学（特に有名校）と比較した場合、教員の数が少なく、テーマによっては指導体制が十分ではない可能性があります。また同じ分野の先輩や同期といった専門的な話ができる相談相手がないという場合もあります。第2に就職等で「知名度」が県外で劣ることなどがあります。しかし昨今では民間企業は人物重視の採用を行なっているのであまり問題はないでしょう。

次にメリットです。この地域政策専攻には上述したデメリットをかき消すメリットがあります。第1に研究科が少人数であることです。多くの講義が数名で行われ、マンツーマンの場合さえあります。そのため教員と学生の距離が近く親密です。その中で専門分野を越えた知識や方法論が得られ自分の視野が広がります。さらにマンモス校の大学院にありがちな指導教員に会えないといった事態がありません。

第2に、少人数の研究科ですが決して閉じているのではなく外部に開けているということです。人文科学研究科には「コミュニティ・マネージャー養成プログラム」があります。これを履修すれば地域社会の中で活躍する方が講義をしたり、その現場に入っていった経験を積んだりできます。

僕自身は全学部一体の「人文社会系サスティナビリティ学」プログラムを履修しています。その中で昨年は海外演習に行き他学部の学生とも親しくなりました。これが大学院生活をいっそう充実させてくれています。

最後に進学を迷っている方に伝えたいことがあります。学部を出てすぐに社会へ出るのが「普通」の道ですが、寄り道して自分が学びたいこと・もやもやと感じていることを大学院の仲間とじっくり考えるのも1つの道であり決して後悔はしません。これは進学を迷った僕自身の経験から言えることです。



## 地域研究・社会学コース

- 社会学、政治学、地理学、歴史学の分析手法あるいは複数分野の手法で、グローバルな観点から「地域」を研究し、諸課題の問題解決の方法を探求します。修了後は、他大学院博士課程への進学や教員、国内外の行政、企業、そしてNPO等の非営利分野において、観光・福祉・環境・市民協働といった課題でリーダーシップと専門能力を発揮できる人材としての活躍が期待されます。

### 【主な授業科目】

地域社会論研究、国際政治学研究、アジア政治論研究、アジア社会論研究、ヨーロッパ社会史研究、社会地理学研究、経済地理学研究、都市計画論研究、環境社会学研究、産業・労働社会学研究、家族社会学研究、生活保障論研究

### 【教員一覧】

星 純子、蓮井 誠一郎、木村 昌孝、金 光男、中田 潤、葉 倩瑋、小原 規宏、斎藤 義則、原口 弥生、神谷 拓平、渋谷 敦司、富江 直子



### 修士生の声



地域政策専攻  
泉 清志  
【平成21年度修了】

私は社会人として有職のまま大学院に入学しました。ところで社会人が大学院で学ぶ目的にはどのようなものがあるのでしょうか。例えば、キャリアアップとか専門性を高めてプロフェッショナルを目指すこととか、あるいは博士課程への道のりとして「修士号」の学位を取得することなど、大学からの延長で大学院へ進学するのは少し違って、社会人の場合は専門性へのこだわりや課題研究への意識がより明確に存在しているのではないかと思います。私の場合は、ある専門領域における研究活動が目的でした。私は原子力発電設備を製造する関係の仕事をしています。原子力発電所が立地している地域では、賛否論をはじめとしてさまざまな社会問題を抱えており、そのような「原子力と地域社会」について仕事とは違った立場で何らかの社会貢献をしたいとの思いがありました。そこで、学術的な専門知識修得のため大学院での研究を選択した訳です。しかし現実には、学費の負担とか自由な時間が減ってしまうなど、多くの犠牲とそれに対する家族の理解が必要でしたし、仕事と学問を両立させるための苦労や修士論文では時間的制約下での厳しい研究活動が求められるなど、院生の生活は想像以上に大変ではありました。でも私は大学院での研究活動によって、目標とした論文が完成できた満足感を得るとともに、新たな生きがいを見つけることができたと思っています。私の経験からいえば、社会人にとっての大学院は人生の価値を更に高めてくれる場でもあるように思います。近年、大学院は社会人を受け入れていく環境を整えつつあります。茨城大学大学院も例外ではなく社会人特別選抜入試や長期履修制度、あるいは夜間授業なども整備されています。私も入学当初は長期履修制度を利用して4年での卒業を目指していましたが、院生仲間の協力や先生方のご支援、それと自分でも少し頑張った結果、2年間で卒業することができました。そして卒業後は、うれしいことに茨城大学人文学部にも所属する地域総合研究所で研究を続けていく環境も供与していただきました。仕事との両立は大変ですが、もうしばらく課題研究も頑張ってみたいと思っています。

### より善い経済社会を実現するための方法論を学ぶ

おそらくは誰も、「いまの経済社会をより善くしたい」と思っていることでしょう。では、“より善い”とは、いかなる状態のことを言うのでしょうか。都会に住む高齢者にとって“より善い”状態が、地方でこれから生を享ける将来世代にとっても“より善い”とは限りません。地域社会に暮らす多様な人々にとって可能かつ最善の経済政策を提示するには、経済現象や社会問題を、感覚ではなく科学的な根拠に基づいて論理的に分析することが必要になります。

地域政策専攻には、社会諸科学に精通する専門スタッフが揃っており、さまざまな地域の政策について、多面的に学ぶことができます。専門的な分析視角や分析手法を修得するのは大変ですが、経済社会をより善くするための方法論を身につけることができるならば、二年間を費やす価値は十分にあると思いませんか？是非、共に切磋琢磨しましょう。

### 先生の一言

地域政策専攻准教授  
経済政策  
後藤 玲子

# 秋入試と春入試

## 1年に2回のチャンスがあります

### 入試情報

入試は「秋入試」と「春入試」の2回実施されます。  
入試には、一般選抜のほか、社会人と外国人留学生に向けた特別選抜があります。

### 募集人員

| 専攻     | 募集人員 |     |     | 社会人特別選抜、<br>外国人留学生<br>特別選抜を含む |
|--------|------|-----|-----|-------------------------------|
|        | 合計   | 内 訳 |     |                               |
|        |      | 秋入試 | 春入試 |                               |
| 文化科学専攻 | 13名  | 9名  | 4名  |                               |
| 地域政策専攻 | 12名  | 7名  | 5名  |                               |

### 出願期間

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 秋入試 | 平成24年8月27日(月)～平成24年9月3日(月) |
| 春入試 | 平成25年1月8日(火)～平成25年1月15日(火) |

### 試験日時

#### 【秋入試】

| 平成24年10月27日(土) |                               |                           |                |
|----------------|-------------------------------|---------------------------|----------------|
| 専攻             | 試験区分                          | 試験科目及び時間割                 |                |
| 文化科学専攻         | 一般選抜<br>社会人特別選抜<br>外国人留学生特別選抜 | 筆記試験(専門科目)<br>10:00～12:00 | 口述試験<br>14:00～ |
| 地域政策専攻         | 一般選抜<br>社会人特別選抜<br>外国人留学生特別選抜 | 筆記試験(専門科目)<br>10:00～11:30 |                |

#### 【春入試】

| 平成25年2月16日(土) |                               |                           |                |
|---------------|-------------------------------|---------------------------|----------------|
| 専攻            | 試験区分                          | 試験科目及び時間割                 |                |
| 文化科学専攻        | 一般選抜<br>社会人特別選抜<br>外国人留学生特別選抜 | 筆記試験(小論文)<br>10:00～12:00  | 口述試験<br>14:00～ |
| 地域政策専攻        | 一般選抜<br>社会人特別選抜<br>外国人留学生特別選抜 | 筆記試験(専門科目)<br>10:00～11:30 |                |

注1) 筆記試験(専門科目、小論文)の問題は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜によって異なることがあります。  
注2) 文化科学専攻コミュニケーションコースの口述試験においては、一般選抜、特別選抜を問わず、英語での面接を行なう場合があります。

### 試験場

茨城大学人文学部(茨城県水戸市文京2-1-1)

### 合格者発表

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 秋入試 | 平成24年11月29日(木)13時頃 |
| 春入試 | 平成25年3月1日(金)13時頃   |

## ■ 働きながら学ぼうとする人を支援する制度

わたしたちの研究科には、社会人、特に職業と学業を両立させようと思っている人を支援する制度があります。

その一つは、長期履修制度です。この制度は、職業を有している等、修学に困難を抱えている学生に対して、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができるというものです。長期履修学生として認められた場合、授業料は、標準修業年限分の授業料総額を、認められた一定の期間に学期毎に均分して支払うことになります。

もう一つは、授業や研究指導などの教育を、社会人で入学後も勤務を継続する場合など、教育上特別の必要があると認められる場合、夜間など学生の都合に合わせた時間または時期に行うことができる制度です。（大学院設置基準第14条の特例）たとえば、文化科学専攻コミュニケーションコースでは、すでに大部分の授業を夜間に開講しています。

## ■ 入学金・授業料

入学手続きの際納付する入学金及び授業料は、次のとおりです。

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 入学金 | 282,000円              |
| 授業料 | 267,900円（年額 535,800円） |

（注1）入学手続きまでに入学金及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学金及び授業料が適用されます。

（注2）在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

入学金については免除及び徴収猶予制度、また、授業料については免除及び徴収猶予並びに月割分納制度があります。詳細は学務部学生生活課に問い合わせてください。

## ■ 奨学金

日本学生支援機構による奨学金制度が主であり、無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金の2種類があります。日本学生支援機構の奨学金は、本人の請求に基づき、日本学生支援機構奨学規定により選考の上、奨学生に採用されると貸与されます。貸与月額第一種奨学金は50,000円・88,000円から選択、第二種奨学金は50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円の中から選択することができます。

また、日本学生支援機構大学院第一種奨学生で、在学時に特に優れた業績を挙げた者として機構が認定した場合、貸与期間終了時に学資金の全部または一部の返還が免除されます。詳細は、学務部学生生活課に問い合わせてください。

## ■ 過去6年の修了生の主な進路

水戸市役所 石岡市役所 茨城県庁 福島県庁 茨城県教育委員会 栃木県立博物館 秋田県教育委員会文化財主事 水戸市教育委員会文化財主事 水戸市教育委員会埋蔵文化財専門員 児童養護施設「こどもの里」 茨城県警察 文京区障害者就労支援センター 茨城県立高校教員 静岡県中学校教員 大洗町役場

日本赤十字社 社会福祉法人翠清福祉会 (財)水府明徳会徳川博物館学芸員 (独)高齢障害者雇用支援機構 茨城県社会福祉協議会 全国農業協同組合連合会茨城県本部 日本郵政公社(当時) 私立水城高校

メイツコア KCS Corp. キーゴン中国支社 ヨークベニマル エアハース・インターナショナル アイエックスときわテクノロジー ジェイ・アイ・エム 大中物産 茨城銀行 読売広告社 ノザワワールド TKX シモデン 丸和製作所 スターツコーポレーション エフ・ディー・シー 椿本バルクシステム JOBX 鶴祥システム Glory Art Holding Ltd.(香港) 住友商事 コンピュートロン ヤマダ電機 三洋通商 三光マーケティングフーズ セントスタッフ ドリームアップ 日立保険サービス 日立ライフ



### 【アクセス】

JR水戸駅(北口)バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗車、「茨大前」で下車。

※乗車時間は約30分ですが、交通渋滞により40分以上かかる場合があります。

またはJR赤塚駅(北口)バスターミナルから茨城交通バス「茨大前行(曙町経由)」に乗車、「茨大正門前」で下車。

## 茨城大学大学院 人文科学研究科

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

電話 029-228-8106 FAX 029-228-8196

URL <http://www.hum.ibaraki.ac.jp>